

資料 2
第3次安芸高田市総合計画シンポジウム
（2026年3月開催）の結果概要

・2026年3月29日に「安芸高田市のまちの未来をみんなと語る日Vol.2」を開催し、参加者数は85名となりました。

第3次安芸高田市総合計画シンポジウム

安芸高田市

安芸高田市のまちの未来を みんなと語る日 Vol.2



日時 2026.3.29[sun]
13:30-16:05(開場13:00)

会場 向原生涯学習センター みらい(広島県安芸高田市向原町坂333)

お問い合わせ⇒安芸高田市企画部政策企画課 電話:0826-42-5612(平日8:30-17:15)

参加 無料 申込 不要

安芸高田市の まちの未来を みんなと語る日 Vol.2

市長コメント

安芸高田市では、第3次総合計画を策定しました。前回のまちづくりシンポジウムをはじめ、子育て世代や学生とのワークショップ、市民との対話集会、アンケートなどを通じて、多くの市民の声を重ね、まちの未来像としてまとめたものです。その想いを形にした「みんなのチャレンジマップ」には、安芸高田市で芽吹き、動き始めている挑戦と、行政と市民が力を合わせて実現したい姿が描かれています。本シンポジウムは、そうした挑戦を後押しし、自らの関わり方を考えるための大切な一歩です。共に同じ方向を見据え、安芸高田の未来づくりに踏み出しましょう！

安芸高田市 市長 藤本 悦志

プログラム

基調講演

久保田 夏菜氏 ここでしかない！今日も明日も、どろんこ子育て

公民連携プロジェクトの報告

兼光 茂洋氏 向原地域におけるまちづくりの共有
江種 恭匡氏／椎葉 寛氏 “推し食”グランプリ受賞の報告
広島県立吉田高等学校 生徒 ド田舎高級化プロジェクトの進捗共有

パネルディスカッション

～地域おこし協力隊の新たな挑戦～

市長
長門 和美氏 テーマ1：私たちが目指す地域の未来
下林 悠治氏 テーマ2：安芸高田市に眠る“地域資源”と、わたしたちの関わりしろ
畠崎 辰登氏

休憩

パネルディスカッション

～コミュニティの役割とは～

市長
吉村 美樹氏 テーマ1：私たちが目指す地域の未来
佐々木 萌恵氏／西本 智佳氏 テーマ2：受け継ぐこと、変えていくこと

登壇者

(登壇順)
久保田 夏菜氏 フリーアナウンサー／こども環境管理士
兼光 茂洋氏 安芸高田市商工会 理事
江種 恭匡氏 神楽門前湯治村
椎葉 寛氏 地域おこし協力隊
広島県立吉田高等学校 生徒
長門 和美氏 地域おこし協力隊
下林 悠治氏 地域おこし協力隊
畠崎 辰登氏 地域特産品開発者
吉村 美樹氏 集落支援員
佐々木 萌恵氏 みどりのひろば実行委員会 会長
西本 智佳氏 みどりのひろば実行委員会 副会長

ファシリテーター

渡邊 一成氏 福山市立大学 教授

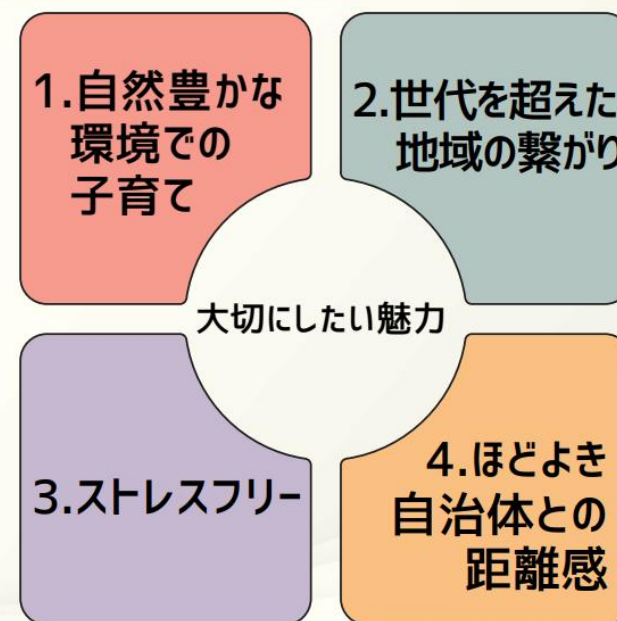
基調講演

- ・ 自然体験は、子どもの**主体性・問題解決能力・運動能力**を育む貴重な学びの場。
- ・ 安芸高田市での子育ての魅力として、①**自然環境** ②**地域とのつながり** ③**ストレスフリーな暮らし** ④**行政とのほどよい距離感**の4つを紹介。
- ・ 親が地域の魅力を楽しみ、子どもに伝えることが、郷土愛や「帰ってきたいまち」につながる。



久保田氏 講演風景

安芸高田市の子育てで感じる、4つの魅力



講演資料一部抜粋

向原地域のまちづくり

- 地域住民が主体となり、祭り・イルミネーション・サイクリングイベントなど多彩なイベントを実施。
- 公園トイレの維持管理など、地域課題を自分たちで解決する文化が根付いている。
- 「地域が好き」という思いと人とのつながりが、継続的なまちづくり活動を支えている。

神楽門前湯治村の取り組み

- 「夜叉うどん」をきっかけに、安芸高田市へ訪れる人を増やす取組を展開。
- 神楽・温泉・食・自然など、地域資源を組み合わせた観光づくりを推進。
- 地域おこし協力隊からは、「今ある地域資源をつなぎ、価値へ変えることが重要」と提案。

ド田舎高級化プロジェクトの進捗

- 吉田高校の生徒が地域課題をテーマに探究活動を実施し、地域活性化に向けたアイデアを提案。
- ミステリーツアーの企画やビジネスコンクールに出場したことなどを報告。
- 若者が地域づくりに主体的に関わることの重要性を発信。



問

私たちが目指す地域の未来

長門：安藝

「安芸高田」の名前に込められた「安心」「自然」「芸術」の意味に着目し、自然と共生する豊かな暮らしを目指したい。

畝崎：田畑に人がいることが似合うまち

紅花畑の風景が安芸高田市を象徴する景色になってほしい。

下林：ワクワク教材があふれるまち！

地域文化や自然を学校教育に取り入れ、子どもたちが地域に誇りを持てる学びを増やしたい。

問

安芸高田市に眠る“地域資源”と、わたしたちの関わりしろ

長門：伝統

神楽だけでなく、花田植えや子ども歌舞伎など多様な伝統文化が地域資源。

畝崎：紅花むすび

紅花には人や地域を結ぶ様々な役割があると考えている。

下林：山川草木と人

山・川・草木・自然だけでなく、地域で暮らす人そのものが大切な地域資源。



問

私たちが目指す地域の未来

吉村：つくるもの、でも、すでに続いているもの

地域づくりは新しいものを作るだけではなく、今ある文化や暮らしを未来につないでいくことが大切。

佐々木：やってみたいをやってみよう！に

誰かの「やってみたい」という思いを後押しできる環境が、地域を元気にすると考えている。

問

受け継ぐこと、変えていくこと

吉村：地域を自分たちで動かす！という仕組み

神楽や伝統行事、地域の知恵など、地域にある魅力を住民と一緒に守り育てていきたい。

佐々木：先輩たちの知識 取り組み方を変え新しい出会いを

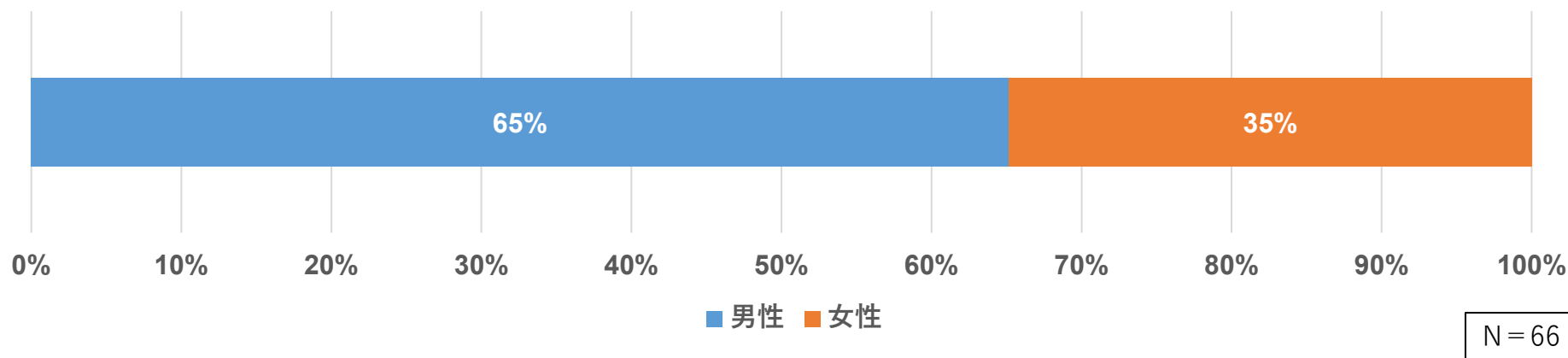
人とのつながりが新しい挑戦を生み、その挑戦が次の挑戦へと広がっていくことが地域の力になる。



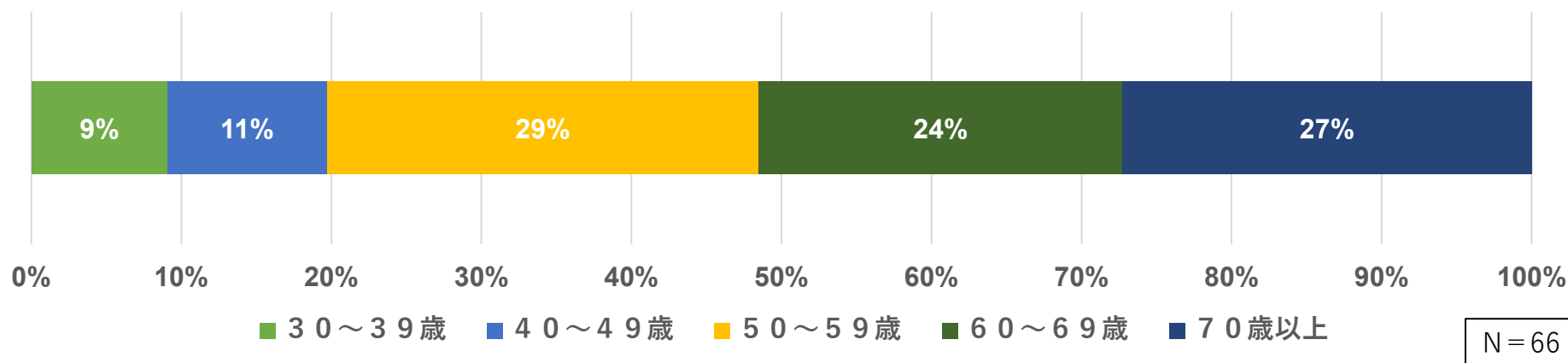
参加者アンケートの結果概要

- ・男性が女性より多く参加しています。
- ・50~59歳の参加者が最も多く、次いで、70歳以上、60~69歳の順に参加者が多くなっています。

問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

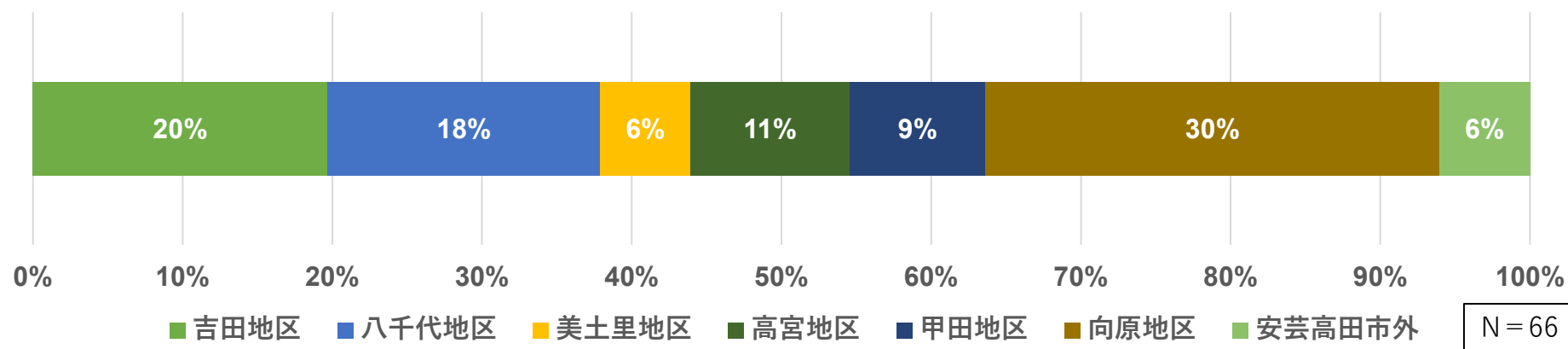


問2. あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

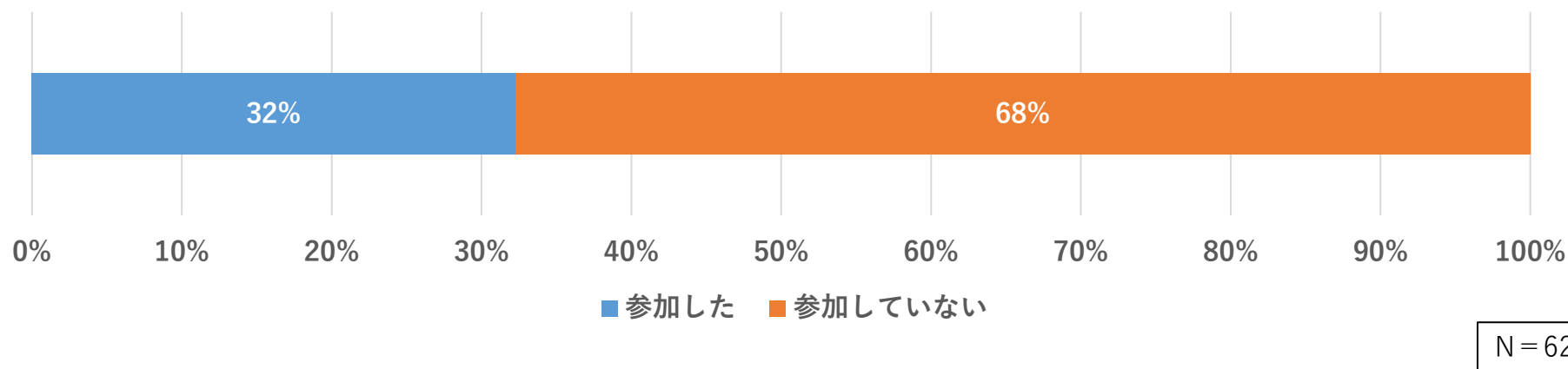


- ・ 向原地区からの参加者が最も多く、次いで、吉田地区、八千代地区の順に多く、市外からも一定数の参加者がいます。
- ・ 昨年のシンポジウムに参加しなかった人の方が多くなっています。

問3. あなたの居住地を教えてください。（○は1つ）

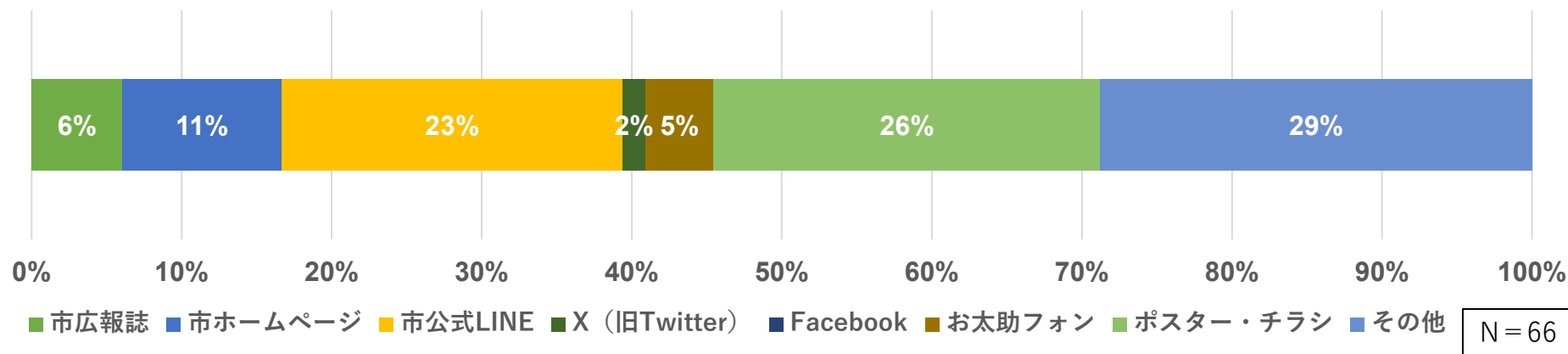


問4. 昨年度のシンポジウムにも参加されましたか？（○は1つ）

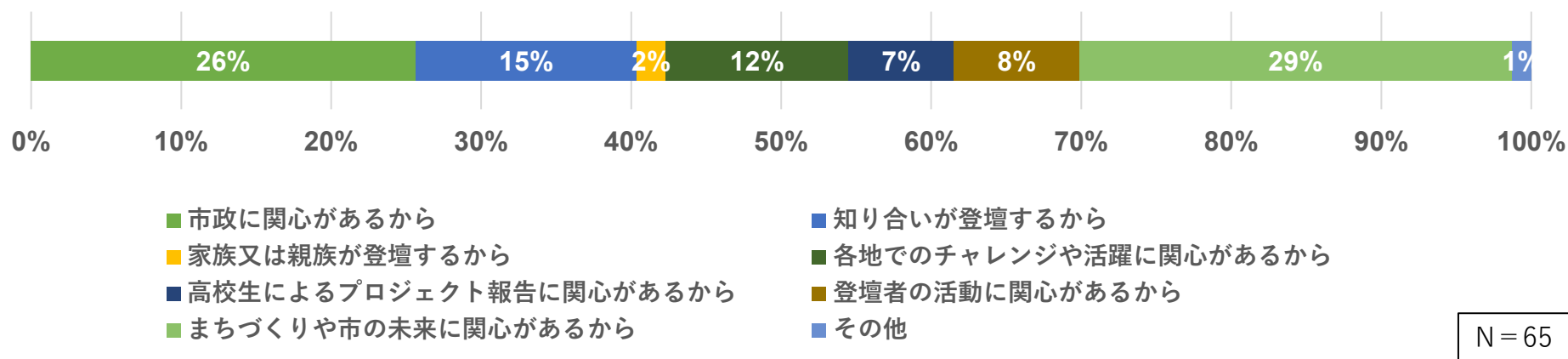


- ・認知経路としては「ポスター・チラシ」が一番多く、次いで「市公式LINE」が多くなっています。
- ・参加理由としては「まちづくりや市の未来に関心があるから」が一番多くなっています。

問5. このシンポジウムをどこで知りましたか？（○は1つ）

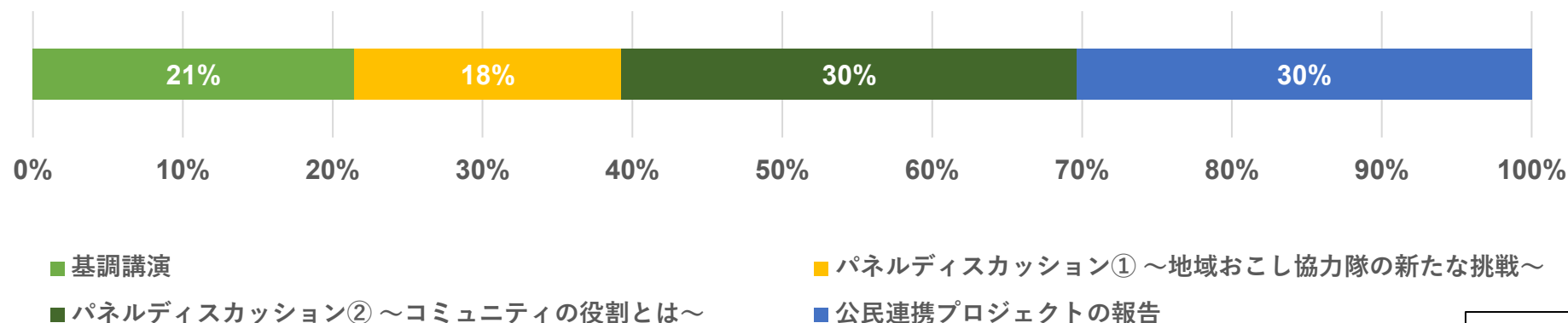


問6. 今回のシンポジウムに参加した理由について、教えてください。（○はいくつでも可）



・一番印象に残ったテーマとしては、「パネルディスカッション② ～コミュニティの役割とは～」 「公民連携プロジェクトの報告」が一番多くなっています。

問7. 今回のシンポジウムで、一番印象に残ったテーマを教えてください。（○は1つ）



N = 56

問8. 問7で回答したテーマについて、どのような点が印象に残ったか、教えてください。（自由記述）

N = 42

代表的な回答の抜粋

パネルディスカッション②

～コミュニティの役割とは～

- ・他所者・馬鹿者・若者のお話は、意外にしっかりきました。

基調講演

- ・「自然が子育て」私もここで育ったことから、まさにその通りだと感じる

公民連携プロジェクトの報告

- ・高校生の意気込みに大変心強く思いました。ぜひド田舎高級化を達成してほしいです。

パネルディスカッション①

～地域おこし協力隊の新たな挑戦～

- ・紅花プロジェクト うねざきさんの想いの力強さが印象的だった。

- ・ 内容について前向きな意見が多く寄せられた一方で、参加者の少なさや周知不足、時間の長さなどについての指摘がありました。

問9. シンポジウム全体の感想を、教えてください。（自由記述）

N = 42

代表的な回答の抜粋

ポジティブな評価（約25件）

- ・ とても素晴らしい機会
- ・ 最初から最後まで素晴らしい会でした
- ・ パネラーの熱量が伝わり楽しく参加できました。
- ・ 有意義なシンポジウムだった

気づき・学び・意識変化（約18件）

- ・ みんな頑張っているのだから自分も加わってこの市を盛り上げて日本でも注目される場所にしたい
- ・ 何か自分にもできることをやりたいと思います
- ・ 人口が増える仕組みが思いつきました。

参加者数に関する指摘（14件）

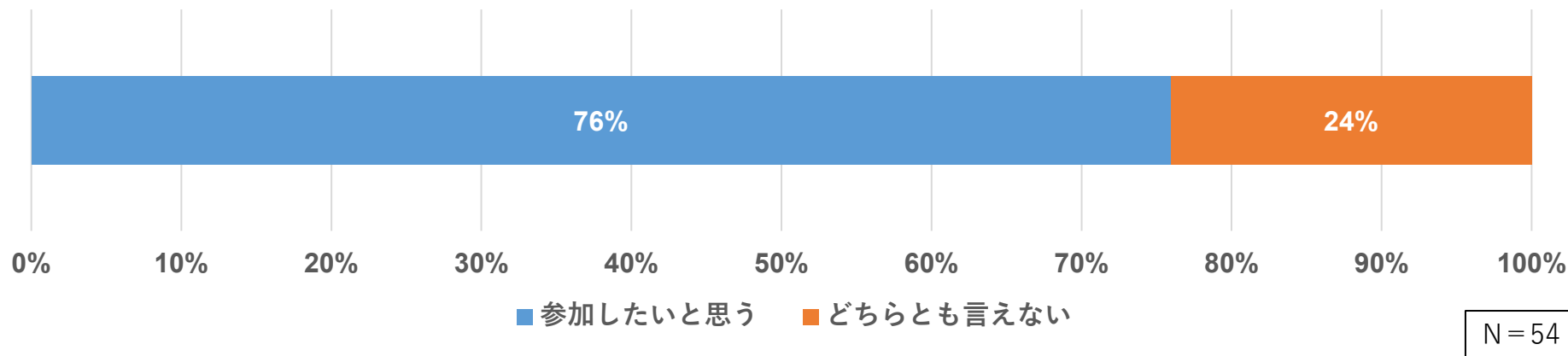
- ・ もう少し、参加者があれば良かったと思う
- ・ 自分が想像していた以上に参加数が少ないので残念
- ・ 参加者が少ない、周知がされていないのか市民の興味を引けていないのか

内容・構成に関する指摘（7件）

- ・ 第3次総合計画の話があると思っていたが、残念
- ・ メニューが多すぎて表面的な内容になっている。もう少し濃い内容にしてほしい
- ・ 全体の時間が少し長いかなと思います

・約8割の参加者が、今後もまちづくりに係るシンポジウムがあれば参加したいと回答しています。今後のテーマについては、農業や自然、若者に関わるものなどがあげられました。

問10. 今後もまちづくりに係るシンポジウムがあれば、あなたは参加したいと思いますか。(〇は1つ)



問11. 問10で「1. 参加したいと思う」と回答した方にお聞きします。どのようなテーマのまちづくりに係るシンポジウムがあると、良いと思いますか。(自由記述)

代表的な回答の抜粋

農業・自然・食に関するもの(6件)

- ・今後(未来)の農業 楽しめる農業
- ・自然と食と農
- ・安芸高田市の農業・林業
- ・農業 観光

若者・高校生に関するもの(6件)

- ・高校生の次回
- ・若者がもっと関われる方法がいいと思います。
- ・地域で活動されている若い方の話し(4のテーマのような)

N = 35